

<http://online.wsj.com/article/SB10000872396390444233104577595221203321922.html>

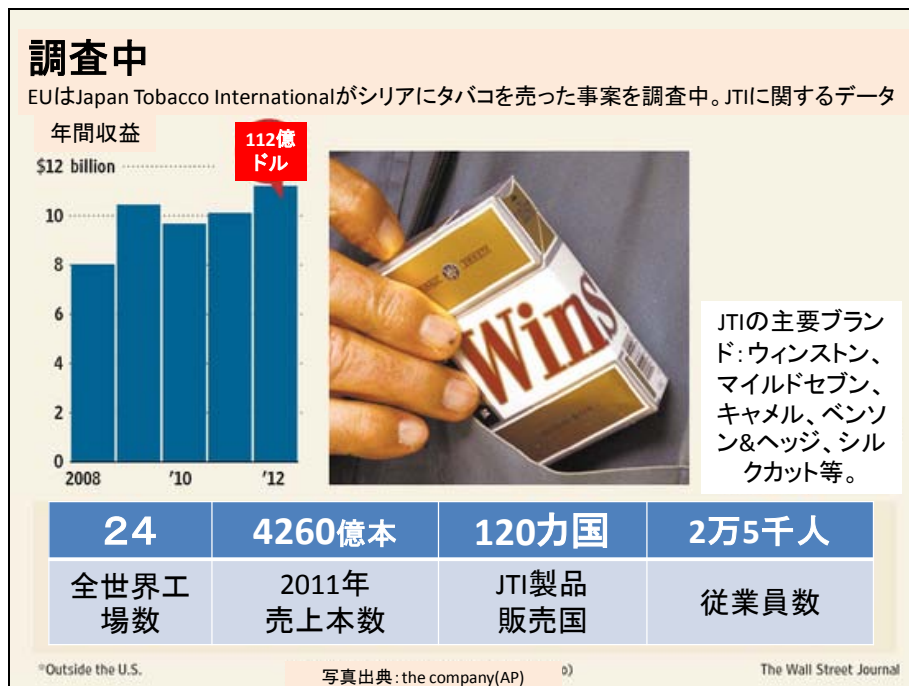
東部時間 2012 年 8 月 21 日

欧州連合がシリア政府を援助した疑いのあるタバコ取引の捜査を開始



【タバコを吸うシリアの反政府派の兵士。本年 3 月シリア北部の反政府拠点イドリブで撮影。反政府派はアサド政権が紙巻タバコを反乱制圧のために雇われた非正規民兵への報酬として供与していると述べている。】

ウォールストリートジャーナルが入手した企業の内部資料によれば、欧州連合（EU）は、シリアに対する制裁措置が、シリアのアサド大統領の従弟の経営する会社にあるタバコ会社がタバコを販売したことによって破られたのではないかとの疑いを持ち調査を始めたということである。



その内部文書によると、スイスに本拠を置く JT の子会社（JTI）が 2011 年 5 月に、その

時点ではマフルーフ家が所有者のひとりに名を連ねていた会社にタバコを販売したことが明らかになっている。マフルーフ氏はアサド大統領の最年長の従弟で、アメリカと EU は、彼がシリアの内乱を流血のもとに制圧するための資金をアサド大統領に提供していると指摘している。

シリアの反体制派は、シリアの国営タバコ会社が、今回のタバコ取引とそれ以上大量の過去の取引により、数百万カートンの紙巻きタバコを入手できたことになり、経済制裁が深刻化する情勢のもとで、シリア政権への資金供給がなされたことになると主張している。何故なら、タバコと言う商品は仕入れ値よりもずっと高い値段で売ることができるからである。

シリアの反体制派は、アサド政権がタバコを、内戦の暴力的な鎮圧に中心的役割を果たしている非正規の兵士や **shabeeha** と呼ばれる民兵に対する報酬として供与しているとも指摘している。「紙巻きタバコは、**shabeeha** 達がとても歓迎する報酬だ」とシリアの反体制派でワシントンに拠点を置く人権活動組織のアマル・アブドルハミド氏は語る。

ビジネスマンのラミ・マクルーフ氏は、マクルーフ家の後継者で、誰もが認めるシリア最大の富豪である。EU は 2011 年 5 月 23 日に、アサド大統領の活動を経済的に支援したという理由で、彼と、その兄弟リアド氏とイハブ氏に経済制裁を科した。

JTI の子会社 **Japan Tobacco International SA (JTI)** の社内文書によれば、その 4 日後、JTI は、45 万カートンの紙巻きタバコをキプロスの卸業者を経由して、**Syria Duty Free Shops Ltd** という会社に発送しており、JTI はその時点で、この会社にマクルーフ家が経営者の一人として名を連ねていたことを認識していたことが明らかになっている。

EU の欧州不正対策局 (OLAF) は、ジュネーブの JTI 支店の営業活動を調査していることを明らかにしたが、本誌に対する詳細の公表は断られた。

JTI のスポークスマン、ガイ・コート氏は、JTI はこれまで EU の制裁措置を厳格に順守してきたし、EU の調査に対しては協力すると述べている。

「2011 年 5 月 19 日以降、わが社は **Syria Duty Free** 社と何の取引もしていない」と彼は述べている。これはマクルーフ家に対して EU が経済制裁を科する 4 日前とすることになる。

コート氏は、EU は **Syria Duty Free** 社それ自体との取引を禁止していないと主張している。

しかも、ラミ・マクルーフ氏は 2008 年にその会社の経営から手を引いている、と述べている。

コート氏は、**Syria Duty Free Shop** 社の資料によれば、マクルーフ氏の兄弟の一人イハブしが去年会社のオーナーに名を連ねていると述べた。

「船便が到着した後、我々は出荷先の会社の経営者の一人が制裁リストに載っていることを知った」とコート氏は述べた。彼は **JTI** が今年の 2 月からシリアのいかなる業者に対しても納入を停止したと述べた。

アラブ系の報道によれば、**Syria Duty Free Shop** は、その後クウェートの企業に売却された。

JTI の親会社の **JT** は、株式の 50% を日本政府が保有している。日本外務省中東部門担当者の一人は、**EU** が **JT** を調査しているとか、**JT** がシリアに紙巻きタバコを出荷したことなどは「認識していない」と語っている。

シリア大使館のスポークスマンはコメントを拒否した。ラミ・マクルーフ氏へのコンタクトは取ることができなかった。

日本は、独自にシリアに制裁を行っている。日本政府はラミ・マクルーフ氏とその父親に 2011 年後半に制裁を実行している。

米国と **EU** はシリアに対してエネルギーと金融を重点とした制裁を行っている。

本誌は、先週、シリア政権がロシアの銀行を通じて、こうした制裁の影響を回避し、石油を輸出して外貨を獲得しようと目論んでいることを報道した。

ロシアと中国は、同じような制裁を全世界レベルで行おうとする国連安全保障委員会の論議を阻止する動きを行っている。

反政府派の自由シリア軍の兵士に対してもタバコが報酬として提供されている例がある。自由シリア軍のロビイストであるシリア支援グループの **Louay Sakka** 氏は「タバコを支給なきゃ、こちら側につなぎとめておけない」述べている。

2011 年 5 月、**JTI** のタバコがマクルーフ氏の会社に向けてシリアのラタキア港に着いたち

ようどその日に、JTI はウィンストン 420 万カートンをシリア国営タバコ会社、General Organization of Tobacco (GOT) に出荷した。このことは、本誌が JTI の社内文書から確認している。

GOT は、当時 EU の制裁リストに含まれていなかったが、その後追加された。GOT は紙巻きタバコ一箱を 24 セントで買い入れた。JTI 社内資料によれば、シリア国営タバコ会社に対して、ウィンストンの 10 パック入りをおよそ 16 万カートン無料で提供するに等しい値引きとなっている。JTI はこれに対して何の反論もしていない。産業アナリストは、このタバコを、中東地域の普通の価格である一箱 3 ドルで売りさばいたなら、1 億ドル以上の利益が手に入るはずだと述べている。

アナリスト達は、発展途上国でタバコ会社が安い価格でタバコを売ることは、ブランド定着を目指すための当たり前の商行為であると言う。しかし、彼らアナリストは、そんなに安い価格でタバコを出荷したり、無料提供したりして、JTI は儲けることができるのだろうかと思議がっている。

オタワ大学の通商経済学の教授デビッド・スウェナー氏は「タバコの取引は慎重さが必要とされる分野だが、工場出荷価格が一箱 50 セント以上でも、輸入業者にとって、とてもうまみのある商売なのだ」と述べている。

コート氏は、「JTI が出荷価格を決める時には、通商上経済上の沢山の要因を考慮する。例えば、競争相手の価格設定とか、営業方針とか、市場の需要とか、物価とか…」

彼はさらに付け加えた。「JTI は、標準的商慣行に沿って、シリア市場で販売される製品の価格設定をしてきた。」

コート氏は、シリア政府は、最近 1 ドル以下で売られていたウィンストンを国内で一箱 3 ドルで転売しようと思えばできたはずだと反論した。

競争相手の某タバコ会社の役員は、シリア国内で内戦前には、一箱 1.05 ドルで売られていたウィンストンが、今では 1.5 ドルに値上がりしていると述べた。

JTI とその中東卸業者でキプロスに本社を置く IBCS Trading and Distribution Co.は、2011 年 3 月の内乱勃発のはるか以前からシリアで営業を開始している。

JTI の資料によれば、2010 年 3 月に、JTI は 675 万カートンのウィンストンをシリア国営

の会社に出荷したが、そのうちおよそ 25 万カートンは無料だったため、1 箱当たりの平均出荷価格は 26 セントに下がった。

シリアの元高官と中東情勢アナリスト等は、アサド政権が、国営企業とファミリー企業の活動によって、数十億ドルにのぼる資金を手に入れていたと述べている。

「アサド家は、シリア国内で様々な商売をして金を儲けてきた。ラミ・マクルーフ氏はこれらの商業活動の中心にいた。」と中近東政策に関するワシントン研究所のシリア専門家の Andrew Tabler 氏は語っている。

過去 10 年以上にわたり、マクルーフ氏は、免税店のほかに、通信会社、航空会社を独占的に設立する権利を与えられてきた。彼とその一族は、大銀行、不動産、メディア産業も保有している。

昨年、彼は経済を活性化させると言うアサド政権の公約をサポートするために、自分のほとんどの財産を手放すと語っていた。反対勢力は、彼がアサド氏を支援するために、現在も積極的に営業活動を続けていると述べている。

2008 年に米国財務省は米国企業がラミ・マクルーフ氏と取引を行うことを禁止した。彼は、国外ビジネスにおける不正と脅迫疑惑のかどでブラックリストに載せられた最初の人物となった。

2008 年の本誌のインタビューの中で、マクルーフ氏はいかなる不正行為も行っていないと述べていた。彼はまた、国際制裁を回避するために、自分の財産を隠すだろうとも述べていた。

2008 年にマクルーフ氏はこう言っている。「今、私は会社をいくつか持っており、そのことは誰でも知っている。でも、明日になれば、私は誰も知らないうちに、別の会社を持つようになるかもしれない。私と手を組みたい、そしてこの国で商売をしたい人なら誰でも、来るが良い。それはかなえられる。シリアは有望で素晴らしいマーケットだ。」

—担当 Keith Johnson、Hiroyuki Kachi—

(翻訳 松崎道幸)